罪な一枚の回覧版が―

大誉地　農地売買をめぐって

一枚の回覧版がまわってこなったために農地買いうけの希望がありながらかなえらなかったという、足寄町の一農民の訴え。

この人は大誉地の佐藤祐子さんで、となりの柴崎義太氏が離農することになって同氏の所有農地四㌶余を手離すことになり、町農業委員会（西村勝一会長）としては柴崎氏が八十三才の高令者であり後継者もなく反別もすくないし、離農補助金の制度も遅く打ち切りとなるので、これを受けつけて地区内に取得希望者を募ったものの、もっとも増反を必要とする隣家の佐藤さん（保有農地七㌶余）は無視されて斗伏の鈴木益男氏に二百万円余で売られてしまったといってフンガイしています。

農業委員会では地区の各自治会を通じて回覧版をまわして取得希望者を募ったところ、鈴木氏ただ一人しか申込みがなかったので尾西民農会長代理、森太一郎、辻淺雄の三委員が二月十四日に斗伏の鈴木氏とのあいだに入ってあっせんが成立したところで佐藤さんが気がついてさわぎ出したものです。

というのは、この一月二十四日にまわした回覧版はなぜか佐藤さんの家にはまわってこなかったそうで、これは隣家の柴崎氏ながら佐藤さんには売買をたくないといっていたので、同氏と親しい多治見牧一議員や地区の農業委員らがくんでワザと佐藤さんだけ回覧版をまわさないように仕組んだのではないかといっています。

これについて大誉地自治会（多田坂栄会長）の回覧版配布担当の毛利勝信氏は『別にだれかに頼まれてワザと配らかったのではなく大誉地市街には役場からふつう十板はくるのに、農業委員会からはタッタ一板しか締め切りは二月二日と十日足らずと短期間なので、全戸にまわしていては間に合わないので、佐藤さんへは一度電話で知らせたが不在だった一そうで、一片の包が放り込まれていたそうで、佐藤さんにすればこの金はワイロという意味ではなく農業経営者である委員にケチャヒマかけることになるので目当のような気持ちであげようとしたといっています。

この点について辻委員は言った覚えはない、佐藤さんは言ったと主張しています。いつ警察がくるかと待っていたところ、四月一日の朝、新聞でも配達されたかのように問題の三万円の包が放り込まれていたそうで、佐藤さんにすればこの金はワイロという意味ではなく農業経営者である委員にケチャヒマかけることになるので目当のような気持ちであげようとしたといっています。

この点について辻委員は言った覚えはない、佐藤さんは言ったと主張しています。いつ警察がくるかと待っていたところ、四月一日の朝、新聞でも配達されたかのように問題の三万円の包が放り込まれていたそうで、佐藤さんにすればこの金はワイロという意味ではなく農業経営者である委員にケチャヒマかけることになるので目当のような気持ちであげようとしたといっています。

二十九日の農業委員会総会でおつせんがおりに鈴木氏への売渡しが決定しましたが、委員会事務局では佐藤さんは足寄町の農民でも町民でもないので、たとえ申し込みがあっても農地取得の資格はないといっていることで、確かに佐藤さんは一時的に浦幌町の農家へ二十七日に地元の辻委員のところへ帰すように届け、辻委員は翌二十八日に佐藤さん宅を訪れて『これではロッキード事件のようになる、この土地問題は他の委員に口外しないと一札書けそうしなければ警察へ突き出す』といったが、佐藤さんは『そんなものは書けない』と断ったのもの別れになったといいます。

この点について辻委員は言った覚えはない、佐藤さんは言ったと主張しています。いつ警察がくるかと待っていたところ、四月一日の朝、新聞でも配達されたかのように問題の三万円の包が放り込まれていたそうで、佐藤さんにすればこの金はワイロという意味では

のではないかといっています。

これについて大誉地自治会（多田坂栄会長）の回覧版配布担当の毛利勝信氏は『別にだれかに頼まれてワザと配らかったのではなく大誉地市街には役場からふつう十板はくるのに、農業委員会からはタッタ一板しか締め切りは二月二日と十日足らずと短期間なので、全戸にまわしていては間に合わないので、佐藤さんへは一度電話で知らせたが不在だった一そうで、一片の包が放り込まれていたそうで、佐藤さんにすればこの金はワイロという意味では

民営移管を否決

ゴミ処理　陸別町議会

昨年九月の陸別町議会の定例会に宇遠別の立野宏氏から『ゴミ処理事業を私の立地条件等より考えて家業に最適なので実施させてほしい』との陳情についてはは厚生委員会（渡辺平吉委員長）に調査を付託していましたが、その結果がこの三月の定例会に報告されました。

それによると、町営にしても民営にしてもメリットに大差はないが、町営だと臨時職員の取扱いに不合理性があり、立野氏は専業でやるというので機械力も備え、顧客からも収集にあたるのでゴミ収集のステーションを設けて機動的に処理すれば汚臭や犬、猫に散らかされる心配もないので、陳情は採択との報告があり満場一致で採択されました。

しかし、厚生委員会でこの報告書をまとめる段階で陳情を採択すべきというのが西村秀盛、藤沢勉の両委員で、松台国雄、林保治の両委員は反対でまとまらず渡辺委員長の裁定で三対二の形で報告されたもので、本会議でもこの報告をめぐって意見が対立して、どちらにしてもメリットに大差がないなら現状のままでよいという議員が多く、多数決でこの陳情は不採択、つまり民営移管は否決となりました。

かつて、し尿処理だけでは経営が安定しないので併せてゴミ処理事業もやらせてほしいとの星宏道氏の陳情があって議会はこれを採択とし、理事者側も民営移管の予算も組んだものの役場職員組合の反対があって実施できなかった経過があるが、今回は、たとえ議会が採択しても実施できないのならば無意味といった空気が支配的だったようです。

賃金未払いで

平野組と交渉中

社長が替り事務所も足寄町南一区に移った平野組建設工業株式会社（川田重春社長）ではたらいた十八名の労務費が昨年分の賃金の残り二百二十万九千百六十七円の支払いを求めて交渉をしているもののラチが明かず、困り果てています。

このことは昨年から帯広労働基準監督署がとりあげて数度にわたって同社に支払いの勧告があって、川田社長は十八名に対して本年一月と二月に完済するというの内容証明郵便を送達したところ四月三十日までに支払うとの回答があったそうで、こんどは実行されるかどうかということです。

三月二十五日と四月二十五日の二回にわけて支払うことになったけれども依然として約束だけで、月末の何日に支払うと指定した時刻をあかず、困り果てています。

このことは昨年から帯広労働基準監督署がとりあげて数度にわたって同社に支払いの勧告があって、川田社長は十八名に対して本年一月と二月に完済するというの内容証明郵便を送達したところ四月三十日までに支払うとの回答があったそうで、こんどは実行されるかどうかということです。

「旅立ち」から「青春」へ

松山千春の室

山口県岩国市のM・Kさんから『やりました！公立高校に合格できました。半分は千春のおかげなんですよ！だって千春さんがいつもいっぱつたんだもの…父も母もいつもいっぱつたんだもの…父も母もいつもいっぱつたんだもの…父も母も